

「今、何の病気が流行しているか！」

(川崎市感染症発生動向調査事業—平成30年第44週)の情報提供について

市内の定点医療機関から提供された感染症の患者発生情報をもとに市民提供情報である「今、何の病気が流行しているか! (平成30年第44週)」を作成しましたのでお知らせします。

平成30年第44週 (平成30年10月29日から平成30年11月4日まで)

第44週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 流行性角結膜炎でした。

感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は4.38人と前週(4.30人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は2.51人と前週(2.89人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は1.67人と前週(1.56人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

今週のトピックス

“～薬剤耐性 (AMR) を知っていますか?～” について取り上げました。

さまざまな細菌感染症の治療薬として抗菌薬 (細菌の増殖を抑制したり殺したりする薬) が使用されています。抗菌薬は、適切な使い方をすれば非常に効果のある治療薬ですが、一方で中途半端に、あるいは不必要に使用すると、抗菌薬の効かない耐性菌を生み出してしまいう危険もあります。薬剤耐性 (AMR) とは、特定の種類の抗菌薬等が効きにくくなる、または効かなくなることです。

※ 川崎市感染症発生動向調査事業では、感染症のまん延の防止と市民の健康の保持に寄与するべく、市内の定点医療機関 (小児科37施設、インフルエンザ定点61施設、眼科定点9施設、基幹定点2施設) 等から報告された感染症発生状況をもとに集計を行い、市内の感染症の発生状況の正確な把握と分析、市民や医療関係者への情報の提供を行っています。

連絡先 川崎市健康福祉局保健所感染症対策課 小泉
電話044 (200) 2446
川崎市健康安全研究所 三崎
電話044 (276) 8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

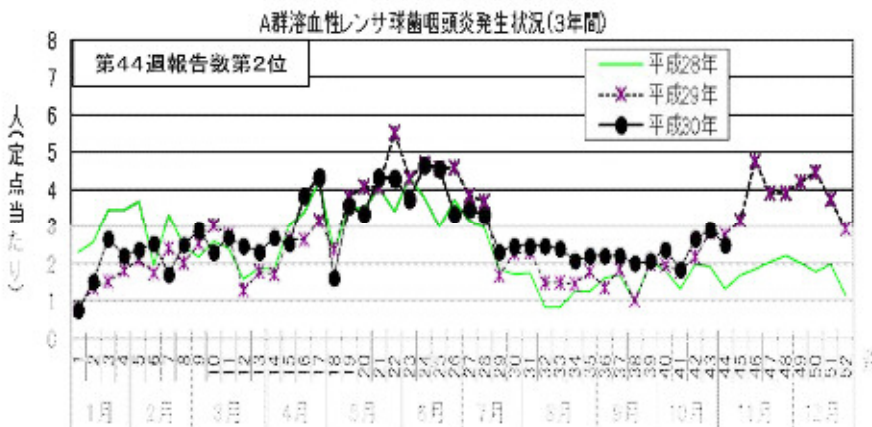
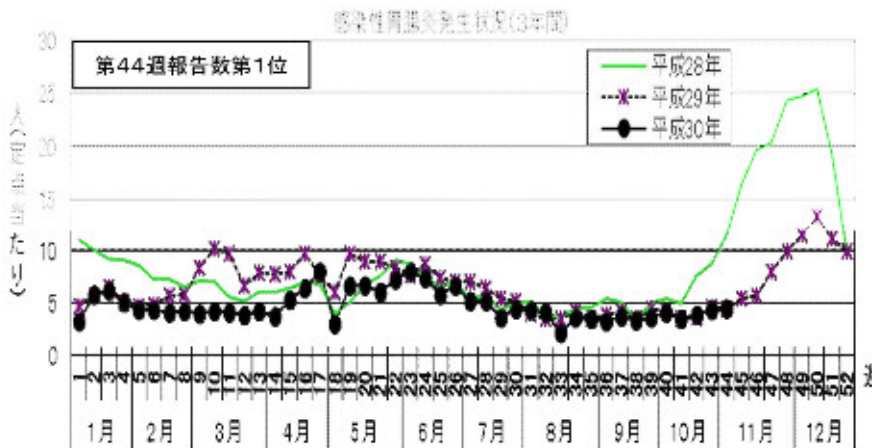
平成30年10月29日（月）～平成30年11月4日（日）〔平成30年第44週〕の感染症発生状況

第44週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 流行性角結膜炎でした。

感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は4.38人と前週（4.30人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は2.51人と前週（2.89人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は1.67人と前週（1.56人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



～薬剤耐性（AMR）を知っていますか？～

さまざまな細菌感染症の治療薬として抗菌薬（細菌の増殖を抑制したり殺したりする薬）が使用されています。抗菌薬は、適切な使い方をすれば非常に効果のある治療薬ですが、一方で中途半端に、あるいは不必要に使用すると、抗菌薬の効かない耐性菌を生み出してしまう危険もあります。薬剤耐性（AMR）とは、特定の種類の抗菌薬等が効きにくくなる、または効かなくなることです。

抗菌薬は正しく服用しましょう！

- かぜの原因の多くはウイルスのため、抗菌薬は効きません。
- 抗菌薬は医師の指示どおり最後まで飲み切りましょう。
- 抗菌薬をあげたり、もらったりするのはやめましょう。
- 抗菌薬をとっておいたり、別の機会に飲むのはやめましょう。
- わからないことは医師や薬剤師に聞きましょう。

感染症の予防が重要！

- 手洗いの徹底
- ワクチン接種
- 咳エチケットを守る。



＜耐性菌が増えるメカニズム＞

